

面

122

コーヒーブレイク

とくぐいち

できるだけ普通に使って下さいね
何をするコーヒーが冷めないうちに
軽快な会話を好む腹の虫
唇がとんがってきた二人かな
からまったところで黙る二枚舌
悪口の根っこの温度が気にかかる
そう思う私がちよつとクエスチョン
一応が貼り付いている結論よ
物わかりよすぎる中途半端かな
構わぬさその辺の石載せておけ

桃色の紙

池 田 澄 子

夕方の気の急ぐ散歩やぶからし
柳散るむかし戸板は人を運び
有限ということ星の流れること
秋の夜長の蛍光ペンの米印
たいがいのはひとごと秋の風
多分身を寄せ長き夜の水子どち
赤紙という桃色の紙があつた
道なりに角を曲がると秋は冬
敏雄忌の夜更かし佳けれ昼の間
こがらしや見えなくならぬ後姿

風流のはじめ

遠 山 陽 子

流水の咆哮を聴く一夜かな

悼 中村裕さん

君逝きてふた夜のはぐれ流水よ

青北風や網走監獄零号館

佐藤文香さん

春泥を二人で跳んで入籍す

幹のぼる水迅からむ百千鳥

風流のはじめや亀の鳴くを待つ

白髪となる糸桜くぐるたび

春の星子宮ちひさくなりてあり

蝶よ蜂よわれは腕から枯れはじむ

スマホ持てば銀河鉄道にも乗れる

遺 作

小 宮 山 遠

死ぬまでの事の多さよ黄水仙
播粉木のごろごろの遅日かな
鳥帰るわがはらわたを食ひ尽し
半鐘のありし辻なり雁帰る
焼肉の看板赤き西東忌
生きそびれ死にそびれして葱の花
春昼や刃を開き置く裁鋏
もう誰も会ひに来ぬ日のいぬふぐり
緑蔭を残して男立ち去れり
大鯰捕られて池の水凹む

神は死ぬ

高 橋 龍

大いなる虫の吐息の虹立ちぬ
岩陰の外陰窺ふ白水をとあ郎ま
向日葵は、である。グラジオラスは、のだ。
立秋や「したがひて」「にも拘らず」
苦も一つ泣き素腹しき秋の空
邯鄲や人人に似る旅衣
大變や生みし子の子を産む良夜
木あけ通び尼に荷に樽たる輪わreれ女め旅た足び袋び目めにう鬱つる
古こ罪ざ工いをく火ほ床どすこ湯ゆ取とりふ不ふ輪ゆ地ち下かし
神は死ぬ。ニーチェは霜げても生きる。